

## 【理事会議事録】

日 時：2007年3月28日12：00～13：00

場 所：東海大学14号館1階会議室

出席者：土佐，柴橋，國枝，花岡，高田，北本，田村，堂谷，和田，中本，渡部，比田井，高羽，嶋作，福田

その他，東條事務長が出席した。

議事に先立ち，署名人を選出した。

議 長：土佐 誠

署名人：花岡庸一郎，高田唯史

## 報 告

### 1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて高田庶務理事より前回（2007年1月13日）理事会議事録が報告され，原案どおり承認された。

### 2. 当年会について

中本年会理事より開催中の2007年度春季年会について口頭で説明があった。3月27日に東海大学で行われた記者発表には計9社よりの参加があり，発表内容は新聞のホームページや何紙かの紙面に載ったことが報告された。年会の講演数は630講演ほど，午前中に登録した参加者は350人ほどであることがあわせて報告された。

また，ある報道機関からクレームとして，発表当日のある新聞の夕刊にその内容の記事が掲載されたが，本来午後開催の記者発表の記事が当日の夕刊に間に合うはずはなく，報道業界のルールを逸脱しているとの指摘があったことが報告された。天文学会としてコントロールをして欲しい旨の要請であり，議論の結果，報道内容の解禁について，時刻を明確に書くべきであり，秋季年会からは新しいガイドラインで情報のリリースを行うことが了解された。

渡部天文教育理事より，記者発表で予定されていた「ひので」衛星に関する発表が急遽キャンセルになったことについて，国立天文台広報の立場からの説明と謝罪があった。NASAが「ひので」についてプレスリリースを行った3月21日にあわせて国内でも発表するようにとの文科省からの強い指示であったため，今回は日程調整は不可能であり，天文学会としての発表は断念，リリースは国立天文台のホームページより行われたことが報告された。

### 3. その他

#### (1) 今後の年会の進捗について

2007年秋季年会について高羽年会開催地理事より口頭で説明があった。懇親会については大学生協と打ち合わせを行い，500名程度の参加は可能であることが確認されたこと，事前登録を行うことで人数の調整等は十分に可能であろうとの見通しが示された。懇親会費については一般4,500円，学生3,500円度を予定しているとのこと。また，9月26-27日に工学部で別の小さな学会があるとのことであるが，重複しても会場に大きな混乱はなさそうである旨も報告された。秋季年会において行われる3学会共催セッションについて中本年会理事より報告があり，現在3学会間で内容や運営についての調整中である旨報告があった。講演者の参加費等については既に確認済みであることもあわせて報告された。他学会員である講演者については講演料等は天文学会正会員待遇とすることが示された。講演数は100件くらいと予想され，ポスター設置のスペースを確保することが難しいことから，全ての発表を口頭にする可能性があり，その場合は2セッションを並行して行う可能性もあることが示唆された。

2008年秋季年会について福田年会開催地理事より口頭で報告があり，会場である岡山理科大学の学長より，開催予定日時において大学を会場として使用する旨に許可がおりたとの報告があった。

また，高田庶務理事より2009年秋季の年会会場の候補としてあがっていた石垣島について，年会実行委員会で開催地としての条件を満たしているかについて議論した結果，会場間の距離が大きいため，旅

費負担が大きくて人が集まりにくいなどの問題点があり、開催地としての条件を満たしていないという結論に達したため、国立天文台VERA観測所の本間さんを通して石垣島にはお断りをした旨報告があった。2009年秋季年会の開催地については候補探しをやり直さねばならず、候補地等の推薦についてあわせて依頼があった。

## (2) 天文月報のバックナンバーの公開について

和田月報理事より、天文月報のバックナンバーのWEBでの公開について、作業は順調に進んでおり、来年度も引き続き行っていくことが報告された。

## (3) 学会ロゴの応募状況について

北本理事より現在公募中の学会ロゴに対する応募状況について口頭で説明があった。既に50を超える応募があり、今後あまり大きく宣伝しなくても大丈夫ではないかとのことである。審査過程について質問があり、理事長、副理事長、デザインの専門家である岩崎氏による審査が行われることがあわせて報告された。

## 議 題

### 1. 新入会員の承認

資料2に基づいて新入会員の紹介があり了承された。またあわせて退会者についても報告があった。

### 2. 百周年記念年会について

柴橋副理事長より資料3に基づいて説明があった。100周年祝賀会については、まず3月23日(日)午後3時より講演会、その後午後5時より祝賀会を行う予定。講演会場は一橋記念講堂(収容500人)、祝賀会場は学士会館(収容200人)を予定している。同日に記者発表も学士会館で行う予定であり、祝賀会の前に行われることがあわせて報告された。記念講演については尾崎洋二氏に要請し受諾頂いたことも報告された。

北本会計理事より、祝賀会において参加者に配布予定の100周年記念切手について、切手シート等の作成については諸般の事情で先行きが不透明であり、シートにして配布することを明言することは今のところできない状況である旨報告があった。

あわせて行われる2008年春季年会については通常どおりの開催予定(総会、懇親会等も通常どおり)であり、会期中に記念の展示会を催したい旨報告があった。会場の確保等はすべて順調であることもあわせて報告された。

公開講演会については3月29日(土)に有楽町朝日ホール(収容638名)で行うことを予定している。会場は既に押さえているとのこと。なお、この公開講演会は天文教育委員会が担当となっているが、これは100周年であってしかも東京での開催という今回限りの特殊事情によるものであり、これ以外の年会で天文教育委員会が同様に公開講演会を担当するのは難しい旨、渡部天文教育理事よりコメントがあった。

学会100周年記念及び世界天文年記念の展示会開催を国立科学博物館と共催で開催することを検討していることがあわせて報告された。内容は望遠鏡400年記念の企画展示で博物館側担当者として洞口、西城の両氏があがっており、学会側の担当者を現在依頼中であるとの報告があった。

### 3. その他

#### (1) 第7回EAMA(東アジア天文学会議)シンポジウムの共催団体について

高田庶務理事よりEAMAのSOC委員長である海部氏より提出された資料4に基づいて、第7回EAMAシンポジウムについて説明があり、天文学会に共催の依頼が届いている旨が報告された。議論の結果、天文学会としては前向きに取り組むべき事項であるという認識を確認し、共催については承認した。なお、詳細についてまだ不明であるため、特に学会側に何らかの負担が求められる場合には相談をしてもらうことをEAMASOCに要請することをあわせて確認した。

#### (2) 2009年世界天文年(IYA)の準備について

高田庶務理事より海部IAU-IYAWG委員・日本代表より提出された資料5に基づいて2009年に行わ

れる世界天文年についての説明があった。天文学会に対する要請としては、

- 1) 関連諸団体と協力して、天文学会がIYAの実行について中心的な役割を担うこと、
- 2) 日本の実行組織を早急に立ち上げることを日本学術会議IAU分科会と共同で呼びかけること
- 3) 日本天文学会にIYAに対応するWGを組織すること

の3点があげられていることが報告された。議論の結果、学会において前向きに考えるべき事項であり積極的には取り組むが、提出された資料だけでは内容がはっきりしない部分も多く、今後の調整も必要であるとの指摘がなされた。とりあえず天文教育委員会（具体的には委員長である渡部天文教育理事）をコンタクト先としてお願いし、詳細が調整された後で別途WGを立ち上げていくことが了承された。

#### (3) スペースシャトルのOFKについて

渡部天文教育理事より資料6に基づいて説明があった。宇宙飛行士の土井隆雄さんが2月に再度超新星を発見し、天体発見賞の候補になることが考えられるが、土井さんよりシャトル搭乗時に各宇宙飛行士が Official Flight Kit (OFK) と称して10品ほどのその人にゆかりのあるところからの記念品を宇宙に持っていくことができるので、今度のフライトでOFKとして学会ゆかりのものを持って行ってもらうことが提案された。土井さんの了解は既に得ており、学会100周年に花を添えるものでもあるので実現したいとのこと。理事会としては承認。現在は発見賞のメダルに特別に刻印がされたものなどを考えているが、今後具体的にどのようなものを持っていってもらうかは調整することとなった。

#### (4) PASJの投稿料半額キャンペーンについて

堂谷PASJ理事より2008年度に投稿料半額キャンペーンを予定している旨報告があった。会計とよく相談しながら話を進めるということで了解された。

次回の日程は6月30日（土）11時～。場所は未定。

2007年4月18日

議長 土佐 誠

署名人 花岡庸一郎

署名人 高田 唯史